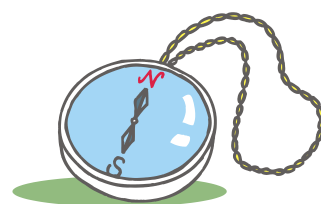


羅 針 盤

第 **32** 号

令和8年2月16日（月）



◆ 「目標」と「目的」

「目標」と「目的」、どちらも具体的な行動を起こすために、とても大切なことです。では、その違いは何なのでしょう。まずは、「目標」とは何なのか。日常的にも、よく「目標」という言葉を使いますが、「目標」というのは、具体的な数や量で表されるものです。何か月か後には、何かが、何回かできるようになっている、といったようなことです。例えば、次の数学の定期テストでは、80点以上取れるように頑張る、といったことです。一方の「目的」は何かというと、言葉を換えて言うとしたら、「何のために？」ということです。10万円貯めたいというのが「目標」だとしたら、10万円貯めるのは「何のためなのか」、といったことが「目的」となります。マウンテンバイクを買うためにだったり、素敵な高級ブランドの洋服を買うためにだったり、あるいは、親孝行で両親を温泉旅行に連れていくための資金だったり、同じ10万円を貯めることでも、「目的」には人それぞれに様々で違いがあって当然のことです。「何のために」、これが、「目的」です。さて、ここで有名な例え話を一つ紹介しておきます。それは次のような話です。「ある西洋の街で、3人の男が教会を造るために、レンガを積んでいました。そこに、通りかかった旅人が、3人の男に「何をしているのですか？」と尋ねました。1人目の男は、「レンガを積んでいるのさ。」と答えました。2人目の男は、「食べるために働いているのさ。」と答えました。3人目の男は、「街の人たちが心静かに祈りを捧げるための教会を造っているんだ。」と答えました。この3人の「目標」は、共通しています。例えば、「1か月後までには、教会を完成させる。」といったことです。しかしながら、「目的」は、全く違います。1人目の「レンガを積んでいる」と言った男には、目標はあっても目的がありません。2人目の男の目的は、お金を稼ぐことにあります。そして、3人目の男の目的は、街の人たちのための安らぎの場所を造るということです。同じレンガを積むという行為でも、1人目の男のように、目的がなかったり、2人目の男や3人目の男のように、目的があったとしてもその内容が全く違ったりする場合があります。人の言葉や行為は、それぞれが持つ目的によって大きく違いがあるということです。生徒の皆さんにとっても、今日の一日でやっていることや、やろうとしていることの目的はいったい何なのでしょう。それを考えることが、まずはとても大切なことであるはずです。3年生の皆さんにとっての進路、つまりは、高校に行ったり、就職したりするのは、何のためでしょう。将来の「何かのため」であって、高校に入学すること自体は、目標であっても目的ではないはずです。このようにして、「何のために」と考えると、目の前の小さなことにはとらわれなくなるはずです。また、くじけそうになった時にも、乗り切れるのではないのでしょうか。先ほどの3人目のレンガ職人であれば、どんなに暑い日や寒い日でも、現在や未来の多くの人々の心の平穏のためという大きな達成感をもたらす目的であるために、へこたれて投げ出してしまうようなことはないはずです。人が生きていくための大きな原動力となるのが、この「目的」といったことにあります。生徒の皆さんには是非とも大きな「目的」を持って、時には「志」と捉えても構わないと思いますが、日々の充実した学校生活を過ごしてもらいたいと考えます。「目的」は、皆さんの心の支えとなってくれるはずですから。

